

／ ワイワイ ガヤガヤ ／ 「東京学生寮」を語ろう

金光教東京学生寮(東京都小金井市、寮監:辻井篤生先生)は、1人ひとりの命、生き方を大切にする金光教の信仰を基に、学問、信心の研鑽を重ねることを願って、1910年(明治43年)に設立された。入寮者は、教会子弟、信徒の子弟を問わず、首都圏の大学や専門学校の若者たちだ。今回は、東京寮を卒業した先輩と、現役の寮生に集ってもらい寮生活の様子を自由に語ってもらった。そこから、ボランティア等の活動や寮生同士の交流を通して成長している様子も伺える。



AKANE FUJIWARA

藤原 茜さん(26歳)
2011~2015年在寮
埼玉県出身



AOMI HIRAIISHI

平石 碧海さん(26歳)
2011~2015年在寮
福岡県出身



MICHIO INOUE

井上 道夫さん(22歳)
2015年~現役4年生
宮城県出身



RIU SAITO

斉藤 理宇さん(28歳)
2010~2014年在寮
宮城県出身



SUNAO OKA

岡 すなをさん(18歳)
2019年~現役1年生
大阪府出身

■ 取材 : 東京編集チーム ■ 構成 : 編集室

金光教の学生寮は どんなところだった

「私は田舎の出身で、同世代の金光教の人がいなくて、周りは大人の信者さんばかり。寮に来て、同世代の金光教の人がこんなにいるんだとびっくり。ボランティアや金光教の活動でも、普通の大学生としても、考え方に違和感はありませんでした」。

「寮に入るまで、自分が金光教の信奉者であることは隠していました。寮に入って、金光教の信奉者であることを隠さず、同世代の人と付き合うことができたので、新鮮だった」。

「すごい安心感。バックグラウンドが一緒、金光教に関わっている者同士、教会子弟・信者の別があっても理解出来る者同士がここに一緒にいる。一人でいても寂しい気持ちにはなりません」。

「私は金光大阪の先生が紹介して下さったので入りました。最初の頃は『信者でもないのにここにいていいのかしら』と思っていました。不安もありましたが、歓迎会でお

花見があり、とてもよくして貰って安心しました。最近はこちらが我が家という感じです。私のお父さんは母校愛がものすごく強く、金光大阪は野球がとても強く、小さい時からよく一緒に観戦に行っていましたし、今年も行きました。父は「先生が家族、学校は家」みたいなことをいつも言っています。私は自分の高校にそういう気持ちはなかったのですが、この寮に入って父の気持ちが分かるようになりました」。

「皆、めちゃくちゃ優しい！疎外感を感じない。いつも誰かと一緒にいなければならぬ訳でもなく、一人の時間もあるし、みんなの時間も持てるところがとてもいい。普通の寮なら、一緒にボランティアをしようということもないし。宗教がベースにある活動には思想があると思います」。

「小さい時は親と一緒に教会に行っていたが、大きくなって金光教に反発もあり、寮を紹介された時も『どうなんだろう？』とか、『お参りさせられるのかな』と思いましたが、ウエルカムだったので安心し

心と身体にやさしい内視鏡検査を求めて

医療法人 沖胃腸科クリニック

医学博士 沖 眞

〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀8番26号 メール八丁堀2F

TEL:082-223-0303 FAX:082-221-5292

た。ここで同じような環境で育った人たちと接するうちに考えが変わった」。

「教会子弟の私は、小さい時は教会であることが好きではなかった。皆の家と違うし。高校で学校の寮に入ったが丁度震災の後で、『金光教つてすこい』との関心の方が強くなって、この寮にも来た。それは『金光教の考えは金光教の人でなければわかんねー』みたいな思いに束縛されていたところがあつた。でも、ここでは子弟や信者といった金光教の人だけでなく、留学生や関係の無い人もいる中で、誰ひとり金光教を嫌う人はいない。金光教の考えは誰でもわかり合えると考えが変わった」。

ボランティア活動や 平和活動は

「震災で実家との連絡がとれなくなってしまうと、どうしようと思った。自分の部屋にテレビがなく、寮の集会室のテレビで安否を確認しようとしていました。心配した寮生が集まってきて、話しか

けてくれ一緒にテレビを見ました。寮にいたおかげで助けられました。『実家の様子を見に行く』と言ったら、当時の寮長が『みんなで行こうか!』ということになった。

丁度その頃、金光教のほうでもボランティアに行くことになり、気仙沼の教会も受け入れが整ってきたので、その後皆は何度も行ってくれた。私がいなくても寮生の皆が自発的に参加してくれた。泥かき、ゴミの撤去などが片付いたところ、実家が仮設住宅に入ると、ものさびしい仮設の家が建っている風景だった。『ここに花があつたらいいね』と花壇づくりをすることになった。寮生の皆が仮設住宅の方々と一緒に作った。2〜3年の計画をたてて継続することで、現地の皆さんたちと交流が生まれ、それも成長の一つになったかと。金光教に関係なく、住民の方々が時間がある方が手伝ってくれたり、『東京から来た子たちが頑張っている』と思って貰えて、いろんな方が一緒にやってくれるようになりました」。

「先輩が『行こう!』と言ったのはびびくりしたし、すごいなと

患者さんの
長寿を目指して



◆糖尿病◆内分泌疾患専門

医療法人 江草玄士クリニック

医学博士 江草玄士

〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀12番4号 八丁堀わかばビル

TEL:082-511-2666 FAX:082-511-2665



思った。その姿を見て、一緒に行きたいな、と思った。1年生だったので学校も始まってなくて、寮監に誘われ、躊躇なく参加することにした」。

「2〜3人とか、夏休みなど1週間とか、長い人では何か月もの人もいて、それぞれに応じて参加した。気仙沼教会のボランティア受け入れ体制ができて、参加しやすくなったのもありました」。

沖繩の遺骨収集はどうでした

「戦争は過去のものだと思っていた。生まれる前のことで、歴史の教科書で知るくらい。ところが、沖繩ではまだ続いていて、自分もその流れに繋がっているんだな、という感覚になった。もう少し戦争のことを自分のこととして考えなきゃいけない、という気持ちが芽生えた」。

「震災ボランティアのこともそうですが、大学生が普通行くかな、と思った。その前に戦争のことを勉強する機会をいただき、実際にお骨を目の当たりにして、知っとかなきやいけないことを経験する機会を、大学生の時に与えてもらって、未だにそういう考えが自分のベースになっています」。

「沖繩戦で亡くなった方の遺骨が拾われずにその場に残されていることや、遺骨収集の活動が何10年と続けられていたことについて、遺骨収集の話を聞くまで知らなかった。実際に行ってみると、木が生い茂った盤石みたいな環境に、亡くなった方の遺骨があつたりして。実際に沖繩へ行くまで、沖繩戦のことは、教科書の

1ページに書いてあつたくらい認識だった。活動に参加して、戦争について考えるきっかけをもらえた」。

「今でも遺骨が見つかるというのは衝撃的でしたね」。

金光教東京平和集会にも参加

「寮監に声を掛けられて、気が付いたら行っている、という感じです」。

「そんなに深く考えてやっていたが、参加した後に考えさせられた。自分たちの知らなかったことを知る。マイナスことは一つもなく、プラスのことばかり経験させて貰った。いろんな環境、経験それぞれ違う中で自分になかったものを持っている人に出会えるし、それによって自分の考え方の選択肢もひろがるし、教えに沿った生き方が出来るような気持ちになる」。

「ボランティアの時には、月例祭の後に報告会を寮監がセッティングしてくれたので『自分はこう思



寮生活を通して
得たものって

「月例祭には留学生も違和感なく参加している。寮生の出席率はいい方だと。毎回というわけではないが、集まる時は集まる。自由なところがいい」。

「寮祭は、3〜4年前から福島から避難してきている被災者との「触れ合い交流会」にスタッフとして参加していたが、昨年は台風で中止になり、延期されたが時期が合わず、今年は参加していない」。

「先輩方はどんなことをされたのですか」。

「高尾山に上ったことがある。きつかった」。

「他にスカイツリー、小金井公園で運動会」。

「寮の庭に花壇を作ったこともあった。震災のボランティアの予行演習で、寮生みんなで作った。レンガを買ってきて、それに銘々が名前を書いて組み上げましたね」。

「その年から、気仙沼からサンマが送られてきて、寮祭の後とか、ここで焼いて寮生みんなで食べた。七

輪を借りてきて、気仙沼産のサンマを焼く」。

「いいな、それ」。

「たまにこのテレビが大きいので映画やテレビ番組を見ています。『やるよー！見るよー』と知らせると、来たい人が集まって」。

「誕生日にケーキを作って、お祝いをしてくれた」。

「私たちの時は買ってきたり、作った人もいたね」。

「他には、部屋で急に鍋とか。集会所で突然焼肉とか。呼んで、来

株式会社 三 福

☎ 092-575-3711(代)

直 通 092-575-4431 FAX 092-575-4377

福岡県福岡市博多区諸岡3丁目22番21号 〒812-0894

代表取締役 **高橋 定利(輔教)**

いました」と伝えたり、他の人の話を聞いてそういうことがあったんだ…、そういう考え方もあるんだ、と情報を共有する機会があったのがよかった。平和集会などでも報告会を開いてもらうのはいかがですか」。

「自分発信で伝えるというよりも、そういった情報共有の機会があったので、結果的に人それぞれ良かったんだなー、と経験や考え方を吸収できた。自分から言うのは難しいが、そういった機会があれば意見交換しやすいかも知れないですね」。

れる人だけが集まって」。

「いいな、それ。誰が言い出したの」。

「私たちの頃は、男子が多かったから。普段は外食なんだけど、たまに作って急に呼んでくれる、という感じだった。男の子同士が仲が良くつて」。

「月例祭の食事当番はもうやった」。

「先月、留学生の方と二人だけで。マーボー豆腐と中華風肉じゃが、留学生の方が、キュウリの浅漬けのようなものにコンスープなど、結構作った」。

「えー、二人だけで！」。

「困った時は榮里先生（辻井栄理、東京寮主事）のおでん“あれがあれば、何とかなるみたいな”」。

「そうそう」。

入寮を検討中の人へ
「是非、東京寮においで」

「最初は“寮か”と思って入ったが、良かった。途中で出て行く人もあまりいないし、寮祭や月例祭にあまり出てこなくても、4年間

一緒に住んでいる」。

「寮とか、金光教とか、そんなに構えなくてもいい気がする。押し付けられることもない」。

「家より門限とかもなく、いつ帰ってきて怒られることもないし、月例祭も絶対出る、みたいなこともないし、皆と話がしたいから出席しようかな、と思う」。

「金光大阪関連で入っている私が“束縛がない”と言っているのだから一番説得力があるかも。自由だし、かといって自由過ぎない。皆さんと話もするし、過ごしやすいい距離感があるかな、つて思います」。

「卒寮して久々にこうして会っても“久しぶり”みたいな、離れている感じもあまりしないし、違和感がない」。

「卒寮して1〜2回しか来ていないのですが、帰ってきた感がなかなかすごい」。

「自分では自覚はありませんが、周りから『しっかりしてきたね』と言われることもあるので、成長していたのかもしれない」。

ほんものの良さをおとどけする



キモノ帯・和装小物 総合メーカー
となみ織物 株式会社

京都市上京区寺ノ内通堀川西入 Tel : 075-431-3301

www.kyo-tonami.com

「ズットここに居たいですね」。

「普通の民間のアパートの一人暮らしと、寮の生活だったら…。経験した側からいえば、絶対寮を選ぶと思う。寮の暮らしは同じ一人暮らしでも、親も安心だし、入った側も、暖かい人が沢山いるから良い」。

「入った年によってやっていることは違っているけど、いろんな人と無理なく、自分が出来る時、出来ることをさせて貰える。イベントには必ず参加しろとか、周りから咎められることもないし」。

「東京に行つてまで束縛されたくない、と教会子弟は抵抗があるかも知れないが、逆に気楽だと思ふ」。

「個室もありながら集會室もあり、シェアハウスより気を使わなくてもいいし、かといって一応共同生活なので好き勝手やっていい訳ではない、協力する所があることも逆がいい」。

「庭の芝刈りも協力するところは協力して皆でやる。大雪の時はその駐車場に雪がたまつて大変で、みんなで雪かきをした…。そ

れが、すごく楽しかったね」。

「それも『やるよ！』とやってやるのではなく、誰かが気が付いてやり、そこに誰かが帰ってきてやり、それでまた誰かが出て来て加わる…。夜中に大雪で電車が止まって、一人で歩いて帰つて来た時、階段が雪で埋まっていたので雪かきしていたら、夜のバイト帰りの別の寮生が帰ってきて『何やってんの』と一緒に雪かきして…。朝までやっていたら、栄里先生がカレーを作ってくれ、皆に食べさせてくれたり、お餅を焼いて食べたり…。雪かきで大変だったけど、それがあつてちよつと楽しいこともあつた」。

「集會室のテレビで、映画とか番組で『これいいよ』と、声をかけて見ている人、お菓子を食べている人…。自由だけど、この部屋にいる感じが不思議。全くの一人暮らしにはない空気がいい」。

話は尽きないようですが、ページの関係もあるので、こちらへんで。ありがとうございました。

葬儀のトータルアドバイザー

株式会社 はなせ

HANASE Co., LTD

TEL:06-6488-0042 FAX:06-6488-0142

〒660-0814 兵庫県尼崎市杭瀬本町1丁目8番13号



クレリブチホール